
カービィ 伝説を受け継ぐ戦士

kaabii

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カービィ 伝説を受け継ぐ戦士

【Nコード】

N4940Y

【作者名】

k a a b i i

【あらすじ】

これは星の戦士「カービィ」と星の魔術師の姉弟「リン」と「レイン」による、闇の者との戦いや、仲間との生活が語られている。

ある日、カービィは散歩していると1人の女の子に出会う。

彼女の名は「リン」。魔術師だという。

この出会いが…、新たな闇との戦いの始まりであった。そして…カービィがリンと会っていた頃…別の空間では、闇の復活の儀が行われ

ていた。

カービィに立ちほだかる新な戦いとは…！

1話 出会うはずのなかった出会い（前書き）

こんにちは！え〜と…、まず最初に…以前更新していた作品がこちらのミスで消えてしまいました。

で…、色々考えた結果……今回、新しいストーリーの小説を乗せようと言う事になりました。

やはり、グダグダかもしれませんが…宜しくお願いします！
ちよつと内容も分かりにくい部分もあると思います。そこら辺は、バンバン聞いてください。

では………始めます。

1話 出会わずのなかった出会い

ここは、宇宙の端にある超平和な星ポップスターにある国ププランド。

ここは今まで、いくつもの闇の者に侵略されかけましたが…、ある人物によってそれは阻止されて来ました。その人物とは……

ある日の昼さがり…、丘の上から歩いてくる人影が……

カービィ「ふあ…今日もいい天気だなあ…平和っていいなあ…」

この人物が今まで、ポップスターを救って来た英雄「カービィ」だ。見た目は幼く、ピンクの球体をしているためとても英雄とは見えな
いが実はかなり強い。んでもって、大食いでたまに友達を困らせる
時もしばしば…

そんな彼が今この丘にいるのは、ただ目的がある訳ではなく散歩の
ついでだという。

カービィがんぐ…！と背伸びをした時だった…カービィが見つめる
先に誰かいる事に気が付いた。

カービィ「ん…？誰だろ…？」カービィが近づいてみると…カービ
ィと同じ球体で、白い体にピンクの足の女の子が倒れていた。

カービィ「だ…大丈夫！？どうしたの…！？」

カービィはかけよって起こしたが意識はなかった。カービィはとり
あえず家に運んだ。

カービィはベットにオナナの子を寝かせ、様子を見た。

カービィ「ふう…怪我はなかったし…起きるのを待とう…」

カービイが女の子を家に運んで30分……

？「……ん……！うう……ここは？」

カービイ「気が付いた……？大丈夫？君、丘の下で倒れてたんだよ。ここは僕の家だよ」カービイは女の子が目を覚ました事に気付き、顔を覗いた。

？「あ……はい。あの……ありがとうございます……私、その……お腹すいちゃって……」少し頬を赤めながら恥ずかしそうに言う女の子を見てカービイはニコツと笑って言う。

カービイ「そっか！じゃあ、ちよつと待ってて……」カービイは台所へ向かうとうさぎ形に切ったりんごを持って戻ってきた。

カービイ「これ食べて！おいしいよっ！」

？「あ……ありがとうございます……！いただきます！」パクパク……！女の子はりんごを5分程度で食べ終えた。

リン「ありがとうございます！私、リンっていいいます。あなたは……？」

カービイ「僕はカービイ！宜しくね！あと……敬語は使わなくていいよ」

リン「あ……うん！分かった。ありがとうございます！」

カービイ「お礼なんていいよ！それより……今日は泊まっていてよ。外は少し暗くなつて来たし……」

リン「じゃあ……お言葉に甘えます」リンとカービイはこのあと、笑いながら1日を終えた。

これが……今回の新たな冒険のきっかけにもなるとは……カービイでも……

予想しなかっただろう…。

1話 出会はずのなかった出会い（後書き）

はあ…終わりました。

今回は、カービィとリンの出会いの話でした。

ほんと…なんかよく分からなくてすみません…ここまで読んでくれた方は本当にありがとうございます。
何かありましたら、教えてください。

宜しくお願いします。 では…また次回お会いしましょうー！

2話 闇の儀式（前書き）

こんにちは！ええと…んまあ…グタグタだけど…ちょっと書き方変えたんで、読みやすくなってる………かもです。

そんだけです。では…！

2話 闇の儀式

カービィがリンと話してる頃……【ファイナルスター】では……あの儀式が始まっていた。

暗い空間に、カプセルで眠っている丸い球体とそれを囲んでいる、ダークマター族達……。

ダークゼロ「……いよいよですか」

星の形をしている闇「ダークゼロ」は不気味に笑いながら白い体をしている者「ゼロ」に話しかける。

ゼロ「ああ……闇の魔術師……レン」のお目覚めだ……」　ゼロはカプセルに黒い塊を入れながら笑う。

カプセルが黒く点滅し始め、数秒後……突然破裂した。そして……煙が巻き上がる中……煙の中からゼロの元へと歩いてくる影が……。

ゼロ「レンよ……気分はどうだ？」

レンと読ばれた黒い球体に赤い瞳と足をした者はフツ……と冷たく笑うと……

レン「気分は……普通。ねえ……、これから僕は何をすればいいの？」と言った。

ゼロ「それはダークゼロに聞け……お前の事は奴に頼んでいるからな……」

ゼロはそう言うと、暗闇に消えた。そのかわりにダークゼロがレン

の前に現れた。

ダークゼロ「まず……手始めに星を3つ消してくるのだ……それから、奴がいるポップスターへ向かうのだ」

レンは「そうか……」と言うとワープホールを作った。

レン「星は僕の好きな所でいいの……？」

ダークゼロ「ああ……、ポップスター以外でな……」

レンは「分かった……」と言うとワープホールに消えた。

そして……レンがワープホールに消えてから5分後……ホロビタスターが爆発した……。

ホロビタスターが消える瞬間をゼロは他の部屋で見っていた。

ゼロ「ほお……破壊の力がこんなに強いとは……面白くなってくるぞ……こりゃ……！」

レンはこの後、ウルルンスター・フロリアを爆発させた。

レンはフロリアを消すとすぐにファイナルスターに戻って来た。

レン「終わったよ……。次はポップスターに行っているの？」

ダークゼロは「ああ……すぐに向かってくれ！」と言った。

レン「……あそこにはねえちゃんがいるのか……まあいいや。んじゃ……、行ってくるか！」

レンが言う「ねえちゃん」とは…次回、明らかになる！

2話 闇の儀式（後書き）

はあ…、終わりましたよ…；
今回はカービィとリン出なかったな…まあ、今回は闇の一族がメイ
ンだったって事で…

私、何度も闇一族の存在を忘れちゃうんですが……今作は頑場って
忘れないようにいきたいと思います。

では…、ここまで読んでくれた皆さま…ありがとうございました！
また…次回お会いしましょうー！

カービィ「次は僕も出るよー！ー！」
作者「こらっ！裏側から出るんじゃないっ！」

3話 まさかの再会！？

ポップスター・ププランド

カービィは今日もほのぼのとした日を過ごそうとしていた。カービィは今、リック達とサッカーで遊んでいる。

リック「カービィ！ボールそちに飛んだぞー！！」
ボールの近くにいたカービィに叫ぶリック。

カービィ「任せてえー！！…よつと！リック！いくよー！」
ボールを取るとリックに向かって蹴るカービィ。

リックはボールを取ろうとしたが相手側のクーに取られた。

リック「ああー！！クー待ちやがれえー！！」 クーに向かって走るリック。

クー「渡さんぞお！カイン、ばすだぞ！」カインに向かってボールを回すクー。しかし…カインは、

カイン「ええー！？いきなり回さないで…！」避けてしまった…そして、後ろにいたカービィがボールを取った。

リック「ナイスッ！！カービィ！」 カービィ「エッヘン！！このまま…ゴールッ！」

カービィが蹴ったボールは相手側のゴールネットに飛んでいき…ピッチはあまりの速さに避け、ボールはゴールに入った。

ピッチ「わあ…！？やっぱリックとカービィは息ぴったりだね…」
ハイツチをするリックとカービィを見ながら呟くピッチ。

そんなカービィ達を見ているのはリンとチュチュ、アドそしてリボンの4人だった。

リン「わあ…！カービィチームは強いねえ…！」びっくりしながら言うリン。

隣ではリボンが笑いながら…。「ほんとだよね…！フツッ！」と言った。

チュチュ「アドはまた絵を描いてるの？」

木の影でキャンパスと睨めっこをしているアドを見ながら問うチュチュ。

アド「うん…、でもねなんか…うまく描けないのよ…。どうしてかな？」

チュチュに問いを返すが、チュチュは「さあ〜ね…」と言った。

そんな時だった…来るはずのない者が来たのは…。

ピクッ…！ リン「！？（レン…！？）」

突然リンが何かを感じとり空を見上げた。そして…そこには…レンの姿があった。

リン「レン…！？なの？」 カービィ「誰…？」

カービィが空にいるレンの気付きたずねる。が…レンは返事をしない。

レン「(ねえちゃん...) まあいいや...。オイ、そのピンク玉！」

カービィ「ピ...ピンク玉!? 僕はカービィだよ! ピンク玉じゃないよっ!」

ピンク玉と呼ばれプンス力怒るカービィ。

だが...レンはそんな様子に気にせず、闇魔法で作る剣「ダーク・ソード」を出し、剣先をカービィに向けた。そして...

レン「カービィ...僕と戦えっ!」 カービィ「きゅ...急になんなのさ...?」

レン「断わるんなら...」 レンはリックに目をやると剣で出す闇の刃「ダーク・カッター」をリックに放った。

リックは反能が遅れ、避けたが腕を掠った。

リック「つう...!!」 カービィ「リック!? 大丈夫!？」

リックにかけよるみんな。リックは「大丈夫だ...!」と言ったが額には汗を出していて、とても痛そうにしていた。

レン「さあ...! 断わるんだったらもつと傷付けてやるよ...!」

カービィはキッ...!とレンを睨み付けた。

カービィ「許さない...! 絶対に許さないよっ!」 「カービィは手を空に挙げると...

ソードカービィ「コピー能力 ソード!」と叫び、緑の長い冒子を被り剣を持った姿に変わった。

リン「カービイの姿が…変わった？」

ソードカービイ「君の名前は…何？」剣を構えて問うカービイ。

レン「僕…？僕はレン。そこにいる人の………弟だ」

リン「！？」 リボン「えっ…！？そうなの、リンちゃん！？」

リンを見ながら言ったレンの言葉にそこにいた一同はびっくりした。まさか、敵の奴が仲間の身内だとは思わなかったからだ。

リン「本…当だよ。私は…光の魔術師「リン」…。で…向こうが闇の魔術師「レン」…」。

私の弟

よ…」

リンはそう言うつと光魔法で剣「ライト・ソード」を作り、カービイと並んだ。

リン「カービイ…私もやるわっ！レンにはなるべく光が多い攻撃を当てて…！」

カービイも剣を構えながら「分かった…！」と返事を返した。そして…、レンVSカービイ&リンの戦いが始まった。

最初に動いたのはカービイだった…。

カービイ「（まずは…）スピニングソード…！」カービイはレンに向かって剣を振ったが、避けられた。

だが…レンが避けた場所ではリンが待っていた。
リン「（出来れば…あなたと戦いたくなかったわ…！）ライトニング・こちこちビーム…！」
百の小さいソードビームを作り、レンに当てる。

レンはとところどころ掠ったが気にしなかった。
レン「…（少し腕が上がったんだな…ねえちゃん）おかえしだ…！
ブラック・スピンビーム！」

リンは技の反動で避ける事が出来なかった。
リン「しまった…！？」 ソードカービィ「リン…！！？」

カービィはリンの元へ走る…そして、動けないリンに迫るレンの技…
カービィがリンの元に着いた時だった…ドガアアアアアン…！
…！！すごい爆発が起こった。

リボン「カービィ…！？」 アド「どうなったの…！？」 チ
ユチュ「無事だよね…！？」

煙の中から出て来たのは…それはまた次に…分かります。

3話 まさかの再会！？（後書き）

3話終わりました！

いやゝゝ、なんかバトルシーン微妙だったかも…；すみません…

では！　ここまで読んでくださった皆様！

また次回！！宜しくお

願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4940y/>

カービィ 伝説を受け継ぐ戦士

2011年11月17日21時38分発行